

講義名	対)中国語講読			
担当教員	森 宏子			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

日本人が中国語を学ぶ上でのメリットはなんといっても漢字が分かること。そのため、私たち日本人にとって、中国語の講読は学びやすく、初級者でもある程度ボリュームのある文章が読めるようになります。講読を通して、中国語が分かる楽しさを知ってもらいたいと思います。まずは教科書レベルの規範的な文章から、余裕があれば、中国の故事（昔話）や、新聞記事などにチャレンジしたいと思います。

到達目標

基本的な文章を読むことができるようになる。
中国語検定試験のレベルを目安とすれば、検定試験4級～3級の講読文が読めるようになります。
本科目は対面を原則とする科目です。オンデマンドでの受講では、到達目標を達成するのが難しい科目であるため、オンデマンドでは開講しません。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者や、濃厚接触者に指定され一時的に通学が禁止となった学生には、別途個別に対応します。

提出課題

宿題として、課題文の日本語訳の提出を求めます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

提出物、中間試験は返却し、講評を行う。

評価の基準

次の点を総合的に判断します
 平常点（受講態度、提出物） 40％
 中間試験と期末試験 60％

履修にあたっての注意・助言他

すでに「中国語A」、「中国語B」などで中国語の学習経験を有し、中国語の基礎がある人を対象としています。中国語ビギナー向けの授業ではありませんので注意してください。
教科書は必ず各自購入し、授業に臨んで下さい。

教科書				
.2冊めの中国語 講読クラス、	劉穎・柴森・小澤正人	白水社	2300+税	978-4-560-06927-1

プリント資料及び参考文献

必要に応じてプリントを配布します。

授業計画

1. ガイダンス、初級文法のおさらい
2. 「自己紹介」
3. 「私の家庭」
4. 「インターネット」
5. 「約束」
6. 「温泉旅行」
7. 中間試験
8. 「私の趣味」
9. 「友達になる」
10. 「食事」
11. 「自覚まし時計」
12. 「アルバイト」
13. 「冬休み」
14. 「留学」
15. 予備教材

1回の授業で1課を消化するペースを基本とします

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○ ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【授業前】
次の授業で学ぶ講義に、目を通しておいください。分かるところ、分からないところを事前に把握しておいてください。
知らない単語を調べ、テキスト付属のCDを聞いて、ピンインの確認をし、音読する。
（以上、2時間程度）

【授業後】
授業で学習した講義を、少し時間をおいて再度読み返し、なぜそういう日本語になるのか、中国語の構造（文法）を理解しましょう。
復習の課題文に取り組む。
（以上、2時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

中国語の実用的な語学力を習得するとともに、中国の社会や文化について理解する資質・能力を身につける。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考